

みらい
つなぐ
北九州 60th

2022 北九州SDGs未来都市アワード

報告書



主催
北九州市、北九州ESD協議会



2022

北九州SDGs未来都市アワード



- 主催** 北九州市、北九州ESD協議会
- 応募資格** 北九州市内を中心にSDGsやESDの普及に貢献し、SDGsの達成に寄与する活動を展開している学校・団体・企業の活動

- 表彰部門** ● 市民部門 ● 企業部門

- 賞の種類**
 - SDGs大賞** SDGs達成にあたり、他者のモデルとなる極めて優れた活動と認められるもの
 - ESD賞** SDGs達成にあたり、他者のモデルとなる優れた活動のうち、特に教育や人材育成の観点において極めて優れた活動と認められるもの
 - SDGs賞** SDGs達成にあたり、他者のモデルとなる優れた活動と認められるもの

選考基準

項目	内容
SDGsとの関連性	持続可能な社会の実現に向け、環境、経済、社会の視点を組み入れ、取り組む課題や目的を明確にしているか。
協働	多様なステークホルダー（人や団体）と、どのように協働しているか。
意識や行動の変化	課題解決のための学び合いや実践を通じて、個人の価値観・態度・行動の変容、地域力の向上及び社会の変容に影響を及ぼしているか。また、今後、他の活動に波及することが期待されるか。
選考委員の独自の選考基準	SDGsやESDの有識者からなる選考委員が、それぞれの専門分野の観点から選考項目を設定し、選考を行う。

- 受賞数** 13件 (SDGs大賞:2件、ESD賞:2件、SDGs賞:8件、SDGs継続賞:1件)

表彰の背景・目的

①北九州の持続可能な社会づくりの「原点」は公害克服

ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) は、持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人を育む教育です。

1960年代、北九州市では、深刻な公害を、婦人会の取り組みをきっかけに、市民・企業・行政等が協働して克服した歴史があります。この歴史を「ESDの原点」と位置づけ、2006年9月に設立した北九州ESD協議会を中心に、これまで様々な立場の人が、持続可能な社会づくりのための活動を推進してきました。

②世界共通の目標 SDGsとESD

そのような中、2015年に「誰一人取り残さない」という理念のもと、国連加盟国193か国の全会一致で、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) が採択されました。近年、SDGsという世界共通の目標の達成と、その人材育成を担うESDはますます重要になっています。

③持続可能な社会に向けた活動を表彰

こうした世界的な動きをうけ、北九州市と北九州ESD協議会は、SDGsやESDの普及と、活動者の意欲の向上を図り、本市でのこれらの活動をより発展させるため、「持続可能な社会づくり」やそれを担う「人づくり」活動を表彰することを目的に、「北九州SDGs未来都市アワード」を実施しました。



婦人会による公害克服運動



大学・企業・自治体も協力し、公害を克服 (省エネ型生産工程や公害防止機器整備)



公害克服の経験と技術を世界・次世代へ (インドネシア・スラバヤ市でのコンポストによる生ごみ堆肥化事業)






「今」もひろがり続けるESDの輪 (北九州ESD協議会での講演会、イベント)






受賞者の活動紹介



市民部門

 SDGs大賞	福岡県立 八幡高等学校	3
 ESD賞	キッズ・キッズ保育園	4
	福岡県立 戸畑高等学校 家庭クラブ	5
 SDGs賞	高須地区 社会福祉協議会	6
	日本カブトガニを守る会 福岡支部	7
	特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所	8
	特定非営利活動法人 ロシナンテス	9

企業部門

 SDGs大賞	株式会社 小倉縞縞	10
 SDGs賞	株式会社 ライフクリエイト	11
	TOTO 株式会社	12
	株式会社 EVモーターズ・ジャパン	13
	第一生命保険 株式会社 北九州総合支社	14
 SDGs継続賞	日鉄エンジニアリング 株式会社	15
	その他今回応募いただいた皆様	16

選考委員 (敬称略・五十音順)

〈委員長〉	■ 石丸 哲史	(福岡教育大学教育学部 教授 (ユネスコスクール支援・ESD推進担当))
〈委員〉	■ 大島 順子	(琉球大学国際地域創造学部 准教授)
	■ 大田 純子	(IGES北九州アーバンセンター 研究員)
	■ 澤 克彦	(九州地方環境パートナーシップオフィス コーディネーター)
	■ 實松 秀男	(北九州商工会議所 産業振興部長)
	■ 竹本 明生	(国連大学 サステイナビリティ高等研究所 プログラムヘッド)
	■ 田中 由美子	(九州女子大学 家政学部 教授)
	■ 遠矢 弘毅	(株)北九州家守舎 代表取締役 (一社)ソシオファンド 北九州理事)
	■ 山中 満夫	(株)福岡銀行 北九州営業部長)



受賞者の活動紹介

福岡県立 八幡高等学校

市民部門

活動名

普通科SDGs探究活動
「夢現∞プロジェクト」



活動目的

令和4年度から本格始動となった「総合的な探究の時間」は、本校理数科で30年の実績がある「課題研究」と通じるものがあり、そのノウハウを活かし、普通科が開発したのが「夢現∞プロジェクト」です。SDGsの実現やSociety5.0(ソサエティ5.0)の到来に伴って生じる課題に着目し、将来の国際社会および日本社会における課題の発見、解決に資する知識、技能の習得と、その活用に関わる思考力、判断力、表現力を育成し、実践につなげます。

活動概要

SDGs17のゴールからテーマを選択し、以下のような探究活動を行っています。ゴール実現のための行動計画を策定し、理念、思考方法を学ぶ講演会、実態を学び解決策を検討するための取材活動、社会人との協議・座談会、行動計画の実践、成果発表会を実施しています。

◎探究事例「防災意識で自分の命を守ろう」

気候変動への適応策を検討。本校周辺のハザードマップの作成と学校周辺への掲示・避難行動判定フローの配布を行い、災害に対する知識と危機管理の大切さを周知しました。

◎探究事例「SNSで削減する食品ロス～情報社会を利用しよう～」

食品ロス削減への取り組みを検討。北九州市では導入事例の少ない消費者と販売者を直接つなぐフードマッチングサービスのアプリ「CYCLE EATS」に着目し、実際に食品販売店と検証。1週間で約2%のロス削減につなげ、近隣商店街や市場へも「CYCLE EATS」の普及活動を実施しました。

◎探究事例「私たちは活躍したいんです!ジェンダーギャップをなくそう」

子育てをしている社員が使用するステッカーの作製と企業への導入提案。「育児は女性が行うもの」という役割意識を変えるためのカルタの制作を行い、誰もが働きやすい社会の在り方を追究しました。



「夢現∞プロジェクト」における
班活動の様子



外部協力者の方と協議をする様子

成果と今後の展望

地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、持続可能な社会をしなやかに根気強く創ろうとする人材が育成されています。

生徒たちはSDGsの実現に向け、社会の実態を学ぶために産学官の諸方面の方々取材を重ね(アンケート調査、インタビュー、アクションプランの試験的導入)、研究活動が充実するように指導、助言を継続的にいただくなど、地域社会と一体となって解決策を模索しています。学校の枠を越えて、関わった人々にもSDGsの実現をより身近に考える機会を生み出しています。

今後も、成果発表会を一般公開や動画配信することで、保護者、他校にも案内し、SDGs探究活動とその成果を全国へ広く普及、発展させていきたいです。



12月に開催された成果発表会の様子

主な協働機関	大学・小中学校、地域の企業、研究機関、国際機関
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校全体でSDGsを幅広く取り組み、成果発表会の審査員に企業や行政等、多様な分野から地域の方々を迎えて指導・助言をいただくなど、コンソーシアムを最大限に活用するモデルにも成り得る。 ● テーマとゴールが1本化しているので複合的な視点の育成や、市の特色を明確にした探究も望まれる。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ● ESD活動の推進



受賞者の活動紹介

キッズ・キッズ保育園

市民部門

活動名

SDGsと社会貢献の根っこを育てる
～誰一人残さずできること～



活動目的

0歳児から1歳児、2歳児、ハンディキャップのある子どもたちも視野に入れ、企業や家族をとりまく社会が一丸となって、“一緒にできるSDGs”に取り組んでいます。幼い子どもたちが行動することで、保護者や地域、企業の関心も高まり、協働する機会も増えています。社会貢献の喜びを知った子どもたちには、SDGsの視点を踏まえたシビックプライド醸成への大切な一歩となり、20年、30年後へと繋がる、持続可能な社会の担い手となることを期待します。

活動概要

賛同する企業や家族と手をつなぎ、社会貢献の輪が広がるように、子どもたちが参加できる活動を行っています。

園内並びに賛同企業に専用ボックスを設置し、使い捨てカイロ、ペットボトルキャップ、子ども服を回収し再資源化を促進。特に子ども服は「次に生かそう」プロジェクトを薦めるユニクロとの協働で、回収後は難民キャンプなどでそのままリユースされたり、素材や燃料にリサイクルされます。

その他、放送局が管理するクロスFMガーデンでの菜園・花壇作りでは、地域の緑化活動を盛り上げ、BG無洗米の使用や、使い捨てカイロの再利用による水環境の改善、公平な貿易によるフェアトレード商品の積極的活用など、それぞれの意味を子どもたちに発信しながら取り組んでいます。

成果と今後の展望

2010年から始まった緑化活動を通して地域交流が広まり、職員や子どもたちのコミュニケーション能力が向上しました。その後、職員の研修への意欲も高まり、保育の質の向上にもつながっています。SDGsの活動も特別なことではなく、当たり前のこととして捉えるようになり、子どもたちにも身近なものとして理解されるようになっていきます。

そんな子どもたちを通して発信した取り組みが、保護者や周囲の方へと広がり、協力者も増えています。例えば、子ども服の回収をきっかけに、地域への子育て相談会や一時預かりシステムを構築するなど、活動を知った企業からの新たなSDGsへの提案で、さまざまなイベントや取り組みを企業との協働で行うようになりました。



大きくなあれ 大きくなあれ
おいしい水をどうぞ



お気に入りの服!!大きくなったから、
小さいお友だちへどうぞ



よいしょ、よいしょ!
みんなでたくさんキャップを集めるぞ!

主な協働機関	地域、企業、自治体、放送局、空間レンタル事業者
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 多彩な視点から保育現場にSDGsを導入し、地域の企業・団体との協働の連鎖や広がりが生まれている。 ● 0～2歳児とその家族で取り組める内容を企業と連携し、「小さい時から社会貢献が当たり前」を実現している。 ● 今後、協働による活動が子どもの成長にどう反映しているのか、その道筋と効果が明らかになるとより良い。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもに関する経済的・社会的な課題への対応 ● 地域環境活動の更なる促進



受賞者の活動紹介

福岡県立 戸畑高等学校 家庭クラブ

市民部門

活動名

戸畑高校フードロス削減プロジェクト ～もったいないを ありがとうに～



活動目的

家庭科で学んだ知識や技術をいかし、学校や地域生活の充実・向上を目指すことを目的に活動する家庭クラブ。本校では、2021年度から食品や文具のロス削減に取り組んでいます。企業における1/3ルールや余剰食品の存在を知った生徒たちが自らフードロス削減プロジェクトチームを立ち上げ、校内でフードパントリーを実施したり、地域の子ども食堂でボランティアをすることで、多くの生徒や地域の方々が持続可能な社会を考えるきっかけにもなっています。

活動概要

コロナ禍前の文化祭では「家庭クラブはお菓子を作って売る」というスタイルが定着していましたが、令和4年度は生徒たちの考案した「もったいない」を「ありがとう」大作戦を実施。フードロスに問題意識を持った生徒数名が全校生徒にアンケートを取り、99%の生徒がフードロスを解消したいと望んでいる現状を知り、フードロス削減の活動で実績のある「NPO法人あそびとまなび研究所」からアドバイスや協力をいただきながら内容を構築。文化祭当日の余剰食品を無料配布するフードパントリーでは、農家や企業が同法人に寄贈した100kg以上の余剰食品を396人の生徒たちが家庭に持ち帰り、消費することができました。また、校内に設置した、フードドライブ回収ボックスには、家庭で使わなくなった文具や食品約42kgが集まり、同法人を介して必要な方に使っていただくことができました。



令和4年度文化祭フードパントリー



戸畑区役所主催子ども食堂イベント

成果と今後の展望

アンケート調査の段階では「家庭内で食べ残しをしない」くらいの対策しか考えが及ばなかった生徒たちも、文化祭を含む家庭クラブの取り組みにより、フードパントリーやフードドライブに協力するなど、行動の範囲が広がり、積極的にフードロス削減に関わるようになりました。また、「戸畑区役所」や「NPO法人あそびとまなび研究所」が主催する子ども食堂などのボランティアにも多くの生徒が参加するなど、地域との繋がりも続いています。

今後は、家庭クラブのフードロス削減の活動を発信することで、フードパントリーやフードドライブの認知度が高まり、協力する人が増えることを期待しています。また、戸畑高校オリジナルの文具ドライブは手軽にできるため、他校の家庭クラブへの普及活動も行っていきます。



戸畑高校オリジナル文具ドライブ

主な協働機関	NPO、地域
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒のリーダーシップによるフードロス削減に向けた効果的なプログラムが実施されている。 ● 生徒数名が立ち上げたプロジェクトチームから、多くの生徒を巻き込む活動に発展させている。 ● フードドライブに食品だけでなく、文房具を加えた点は、学校での活動のモデルとなる。 ● 地元の企業や商店などとも連携し、協働団体を増やすとなお良い。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域環境活動の更なる促進 ● 子ども食堂の運営支援



受賞者の活動紹介

高須地区社会福祉協議会

市民部門

活動名

だれひとり取り残さないまちづくり 「たかす元気プラン」の推進



活動目的

高須地域の誰もが安全で安心な暮らしを営み、幸せに過ごせる「福祉のまちづくり」を目指して、福祉活動を進める会です。少子高齢時代の地域づくりに、「たかす元気プラン」として、4つの目標「居場所づくり」「組織のつながりづくり」「健康づくり」「生活支援活動」を掲げ、地域のみなさんと一緒に行政や大学、地元企業などと連携しながら、だれひとり取り残さない、気軽に助けてと言える地域づくりを推進しています。

活動概要

◎たかすSOSネットワーク活動

福祉協力員、生活支援相談員を窓口とし、地元の商業店舗や警察、消防署、学校、銀行、病院などまち全体と連携した認知症行方不明者搜索模擬訓練やセミナーを実施(年3回、延べ参加者200人/年)。

◎たかすちょこっと応援タイ、ゴミゼロ活動

高齢者のみの世帯や障がい・病気で困っている方を対象に、シルバー人材センターとの協働で家事作業などの生活支援を行う活動や、小学校などと連携してごみゼロ活動を実施(年200回、延べ参加者2,000人/年)。

◎その他

住民が気軽に立ち寄れるサロン、SDGsや食品ロス削減とフードドライブやフードパントリー in たかす、ジェンダー平等などの学習会を開催(年50回、延べ参加者800人/年)。健康づくり活動(ラジオ体操会・ひまわりタイチー4カ所、年800回、延べ参加者12,000人/年)の実施。

成果と今後の展望

「たかす元気プラン」で特に重要視している認知症の予防・介護への取り組みを通じて、参加住民の認知症への理解が深まり、「人生100年・高齢社会」のあり方を地域で考える契機となりました。認知症の方への基本的な対応など地域全体で学ぶことで、対応できる人材の育成にもつながっています。

協働団体との「認知症行方不明者搜索模擬訓練」では、地域住民と地域のさまざまな団体や行政との連携の必要性を実感しています。また、行政や大学との協働による、サロンやカフェでの住民の学びの場を設けることで、高齢社会対応やSDGsを念頭においたまちづくりを学ぶことができています。

これまでの取り組みで、地域での支え合いや連携の必要性を実感し、お困り事支援を行う「生活支援相談員」制度や「たかすちょこっと応援タイ」が誕生したように、今年度の経験も地域活動の更なる活性化につながっています。これからの活動も2025年問題に対処してSDGs2030にむけて住民をはじめ、地域諸団体と連携して進めてまいります。



＜認知症行方不明者搜索机上模擬訓練＞
コロナ禍ライン使用



＜孤立化防止＞
お一人暮らしのご家庭のちょこっと応援タイ



＜サロン＞
交流活動で地域のきずなづくり

主な協働機関	地域、市民センター、企業、教育機関、自治会、民生委員、老人会、行政機関、警察署、消防署、病院、銀行、福祉施設
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●地区の元気プランが策定され、それに基づいて高齢者・障害者世帯に対する充実したサポートが展開され、地域福祉を高めるための多くの工夫により、協働型の多くの工夫や、住民すべてがSDGsに向かっている。 ●4つの目標をつなぐ横断的な構造や活動があると良い。 ●元気プランから環境問題などSDGsそのものにも照射し、目標達成に向けて取り組みを深化・拡充してもらいたい。
SDGs未来都市計画との関連性	地域の少子高齢化に対応して「たかす元気プラン」を継続推進。「地域をおおきな家族」として「気軽に助けてといえるきずなづくり」をすすめ、若者、子どもも取り込み多世代型の「だれひとり取り残さないまちづくり」を目標にします。



受賞者の活動紹介

日本カブトガニを守る会 福岡支部

市民部門

活動名

カブトガニの棲む海を未来に！
～カブトガニとカブトガニの棲む
海の未来を変える挑戦～



活動目的

生きた化石と言われる絶滅危惧種のカブトガニと、カブトガニが棲む海・曾根干潟を、地域住民をはじめとするより多くの市民と連携しながら、北九州の宝として次世代に残すための活動を行っています。沿岸環境の健全性を知る指標種と言われるカブトガニの生息状況の調査・研究を基盤に、「できる人が、できる時に、できる事を」をモットーに地域住民と協働しながら、普及・啓発、保全・保護の活動に取り組み、シビックプライドの醸成にもつなげています。

活動概要

産卵調査や幼生調査を行い、生息状況の把握をするとともに、地域の諸団体と連携しながら、産卵観察会などの啓発活動や、漂着ゴミの回収や産卵場の整備などの保全活動を行っています。

◎調査・研究

2022年より新たな連携として、IUCN(国際自然保護連合)カブトガニ専門委員会 Asian HSC Monitoring Network と協働。国際的な標準調査方法ならびに調査データの集積を専門的な見地から指導助言をいただき、専門学校生や地元の中高生参加による曾根干潟の大きかりなカブトガニ幼体調査を実施しました。専門的な調査法を身に付けながら、希少野生生物の調査や保全について学ぶ機会でもあります。

◎普及・啓発、保全・保護

市民講座や行政が主催する自然体感エコツアーや産卵観察会などに積極的に協力し、カブトガニ保護の意義、干潟の生物多様性や、曾根干潟が日本の宝であることを普及・啓発。また、観察会のあとの清掃活動や産卵場の整備では、海ゴミ問題の深刻さや気候変動の身近さも伝えます。

成果と今後の展望

曾根干潟で最大のカブトガニ産卵場所で、地域と連携して観察会や漂着ゴミの清掃活動を重ねていくうちに、動員されなくても河口や海岸清掃活動に積極的に参加する人の輪が広がり、日常的に活動する地元住民やボーイスカウト、シニアネットワークの海岸清掃活動にもつながっています。

また、日本カブトガニを守る会の公開講座を担当支部として初めてオンラインで実施し、地元小学校の取り組みや、地元出身の研究者の講演などを広く一般にアピールすることができました。

IUCNのカブトガニ幼体モニタリング調査では、参加した専門学校生や中高生にとって、IUCNの専門委員や長年調査をしてきた会員から直接専門的な指導を受けるという大変貴重な学びとなったようで、今後も実施する予定です。



IUCNの幼体調査の様子 2022.9.11
(総勢20名4グループに分かれて
40か所のコドラートを調査)



地域、市民センターとの連携で次世代を育てる
(産卵観察会で中高生が生態や形態を解説 2022.7.16)



初のオンラインによる「カブトガニ研究会・公開講座」
北九州からの発信
(北九州サテライトの様子 2021.12.11)

主な協働機関	地域、IUCN(国際自然保護連合)カブトガニ専門委員会 Asian HSC Monitoring Network、教育機関(国内外)、専門学校、自治体
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●新たに専門的な組織と協働することで、研究レベルにおける新たな知見の蓄積と人材育成に貢献している。 ●曾根干潟の重要性を学術的なものとして発信している。 ●過去に本アワードを受賞した地元小学校と連携したり、曾根干潟そのものの環境保全への発展も期待したい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ●SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ●地域環境活動の推進



受賞者の活動紹介

特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所

市民部門

活動名

くきのうみこどもフードパントリー



活動目的

さまざまな経緯で集まった食品や雑貨などを預かり、子育て家庭を中心に、みんなでシェアする活動を行っています。子どもたちとの毎日の活動は、「おもちより」「わけあえばたりる」「ないならないで、ないなりに」「もったいないをみんなでシェア」がモットーです。さまざまな団体や組織との協働で、フードドライブ(集める活動)やフードパントリー(配る活動)の地域への浸透を目指し、一般市民の皆さんにも参加をお願いしながら継続しています。

活動概要

日々の暮らしの中でできる身近で安全な直接的なやり取りによって、食品や生活用品をシェアしあい、コロナ禍で、学校や幼稚園、企業や公共施設がすべて閉鎖されても、市民同士でつながりながら子育てを守る取り組みを実施。協働している団体や組織は多種多様で、各活動会場において、ミニフードパントリーの実施、ロス食品の受け入れ、広報啓発を行っています。

2009年頃から継続していた子供会様活動から、2014年に派生し誕生した「子ども食堂 あーぶくたった」。「地元の旬をみんなで作って食べる活動」を活動拠点「ひびきのbase」にて毎月2～3回開催。コロナの一斉休校時点より全ての活動を屋外へ移し、活動を継続。加えて週2～3回の食品配布活動「あおぞらこどもフードパントリー」を開催。寄贈された絵本やおもちゃ、教材の配布や、学習支援なども実施しています。

成果と今後の展望

見学者、参加者、ボランティアの学生や市民など非常に多くの人々の力により、活動は継続実施されています。普段出会うことのない人々との出会いや活動はコロナ禍ではなおさら稀有な機会でもたらされる品々からも多くの学びがありました。食品ロスや暮らし方そのものへの疑問、持続可能な社会とは何か、日々の暮らしの中で自分が実現できることは何かを、関わった方々と互いに学び合っています。

コロナ禍にあって、2020年3月から休まず活動。「おでかけフードパントリー」は、市内各所、学校から出られない学生のために高校や大学内で実施するなど、新たな協力者との出会いや、活動の広がりがあります。とてもシンプルな活動なので、いろいろな場所での多様な活動とのコラボも可能で、今後も多くの場所で多くの皆さんとともに取り組み、参加者、理解者の拡大を求めて活動を継続していきます。



ひびきでの「あおぞらこどもフードパントリー」の様子。寄贈されたさまざまな食品の中から、自分で食べるものを選んで持ち帰ってもらいます。



市民センターの横の公園でお出かけあおぞらこどもフードパントリーを開催。非常に多くの参加者があり、多数の質問が寄せられた。この後、この地域では、子ども食堂がひとつ誕生することになる。



夏休みに北九州市環境ミュージアムにて、お出かけフードパントリー&ドライブの開催。ボランティアで活動に参加する市内の高校生に活動の背景や目的、仕組みとルール、寄せられている食品や文房具の紹介などを行っているところ。

主な協働機関

市民センター、企業、教育機関、公園施設、NPO、商店街、放送局、新聞社、イベント会場

選考委員からの評価

- 多彩な組織・団体との連携で、持続可能な社会づくりに「食」からアプローチし、人材育成にもつなげている。
- 「遊び」「学び」を媒介にした活動を、コロナ禍でも工夫をしながら頻度を保ち、継続的に展開している。
- 実施回数、提供食材の概算量、届け先数などを数値化し、持続可能なソーシャルビジネスモデルとして、普及啓発に努めてもらいたい。

SDGs未来都市計画との関連性

- 官民連携による「子ども食堂」
- 近所、リサイクル、屋外、予約制とし、蜜を避ける新しい生活様式



受賞者の活動紹介

特定非営利活動法人 ロシナンテス

市民部門

活動名

ロシナンテスと共に学ぶSDGs講座



活動目的

必要な保健医療が受けられない、主にアフリカのスーダン、ザンビアなどに住む人々へ「医」を届け、多くの命を救うことを目指し活動する認定NPO法人ロシナンテス。現地で医療支援を行ってきた医師で理事長の川原尚行は、自らの体験を交えた「ロシナンテスと共に学ぶSDGs講座」を実施し、持続可能な社会を構築するための人財教育・育成を目指しています。世界の出来事を自分事として考え、広い視野で未来に貢献できるよう、ロシナンテスの活動を教材としています。

活動概要

学校法人鎮西敬愛学園敬愛小学校の6年生、北九州市立高校の3年生、北九州市立大学眞鍋ゼミを対象に、対面授業やスーダンからのオンラインなどによる特別授業を行っています。ロシナンテスのこれまでの活動や課題克服を通して、どうすれば持続可能な社会をみんなで作れるかがテーマです。

児童や学生は、アフリカや世界の状況をより身近に感じ、自分事として考え、実践に近い感覚で学ぶ機会となっています。

探究学習の教材としても活用され、「自分たちならどのような持続可能性を生み出せるか」を考え発表も行っています。



スーダンでの活動の様子



対面授業の様子

成果と今後の展望

学生たちには、この講座を受講してもらうことで、アフリカの実情がどうなのか、SDGsの5P (Peopleの分野について) をより身近に感じつつ、興味を持ってもらえました。また、子どもたちが実際に起きている世界の課題をSDGsに落とし込み、楽しく学べるように、学校の協力もありました。

学生たちは、自分でろ過器を作成したり、マラリアを含め医療の対策を学んだりするなど、受講内容を自分事として捉え、発表につなげました。また、高校生は展示会へと発展させました。

さらに、大学生は現地の活動へ的確にアドバイスするなど、活動への協力もしてくれています。

このようなロシナンテスとの探究学習によって得たことを、今後、世界へと羽ばたく子どもたちが未来への一つの糧として、自分や家族、そして地域に関わる方々へ波及することを望んでいます。



真剣に取り組む生徒の皆さん

主な協働機関	地域、教育機関、教育委員会
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 自らの団体の活動を踏まえ、その経験知を活かした活動を学校現場で展開しており、国際NGOのノウハウを地域へと還元・交流するモデルとなっている。 ● 現地の水を浄水するため、自分でろ過器を作るなど、実践型の探究学習を提供している。 ● 参加者の具体的な意識や行動の変化を、今後も見てみたいと思わせる活動であり、連携先を拡大し、SDGsの王道を追求してもらいたい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ● ESD活動の推進



受賞者の活動紹介

株式会社 小倉縞縞

企業部門

活動名

- ①循環型取り組みから生まれた再生糸を小倉織に「縞縞 EARTH」
- ②ハグレ・端材を活用した伝統×SDGs学び「縞縞クリエイト」



活動目的

持続可能なものづくりが叫ばれる前から、丈夫で長持ちが定評の小倉織。一度途絶えた歴史を未来につなげる模索の中で、自社だけではなくサーキュラーエコノミーを確立している企業や団体と取り組むことで道が開けていきました。伝統に革新の技術を取り入れた再生繊維を活用した小倉織の製作、ハグレ・端材を活用した学びの場の創出など、一般市民が楽しく参加できる取り組みで、プラスの連鎖も広がる循環型社会を目指しています。

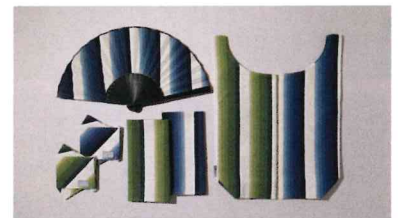
活動概要

◎再生糸を小倉織に

経糸(たていと)は小倉織伝統の丈夫な木綿を高密度なままに、緯糸(よこいと)には衣料回収やクリーンアップ活動で回収した漂着ペットボトルなどを原料とする環境循環型の再生糸を使い、サステナブル素材のシリーズを展開。エコバッグや扇子、はし袋、風呂敷など日常使いのエコアイテムを製作しています。また、音楽イベントで回収したペットボトルを再生糸にして、次のイベントグッズ製作に活用しようという取り組みも行っています。

◎ハグレ・端材を活用した学校との連携

織物工場の製造過程で出る糸の端材や加工の余りハグレを活用して、家庭科や図工・美術で学習教材として使えるアップサイクルキットを企画しました。学校の授業で、子ども達が伝統と環境について学びながら、楽しくものづくりができる場の創出に協力しています。



クリーンアップ活動で回収した漂着ペットボトル等を原料の再生糸を使った小倉織アイテム



SDGsをテーマとした小倉織柄デザインが表紙「北九州市SDGs 地域副読本 KITAKYUSHU SDGs Action」ダウンロード / まなQチャンネル <http://www.kita9.jp/educatr/sub/custom19.html>

成果と今後の展望

北九州市にも世界に誇れる循環の仕組みがあることを自社内で学ぶことができ、顧客や地域住民の皆さまにお伝えすることで、さらに新しい取り組みにつながっていきました。また、市内の学校におけるSDGs教育の水準の高さに驚かされながらも、子どもたちと未来につながるものづくりや地球環境について考える機会は、双方にとって深い学びとなっています。弊社は子どもたちから新しいものづくりの発想を学び、子どもたちは伝統のものづくりや、それをどう経済的に成立させるかを学んでくれます。活動に関わる方々も、今まではゴミとされてきたものを資源として捉え、義務ではなく、楽しみながら積極的に参加されるよう変化しています。

やっても意味がないと他人任せになりがちなSDGsやサーキュラーエコノミーですが、「自分たちのこととして捉えるのが当たり前でかっこいい」と思える子どもたちが、大人や企業を動かすことを期待しています。



令和4年11月実施
北九州市立柳西中学校「総合的な学習の時間」
小倉織ハグレを使ったしおり作り

主な協働機関	地域、企業、教育機関、行政機関、NPO、研究機関、イベント運営機関、青年会議所
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●北九州ならではのリサイクル産業基盤の強み、伝統文化への昇華と多様な主体の巻き込み力が見られる。 ●高度な技術開発による小倉織のアップサイクルと共に、ものづくり体験の機会をイベント会場や教育現場で実践するなど、SDGsに関わる幅広い取り組みがなされている。 ●サーキュラーエコノミーを目指したESDの深化に向けて各学校のニーズに応えながら貢献してもらいたい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ●SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ●ESD活動の推進



受賞者の活動紹介

株式会社 ライフクリエイト

企業部門

活動名

- ◎日本一の御用聞き会社を目指す!!
- ◎リユース品の買取・販売を通して人と地球の「困った」を解決



活動目的

弊社は創業からの便利屋事業と、どんな物でも修理して再利用するリユース事業を融合した御用聞きビジネスを展開しています。特にリユース事業では、まだ使えるのに捨てられようとしている物を、必要としている人へ循環させることで資源の確保とCO₂の削減へ。また、寄付金を集め児童施設の子もたちに良質な教育の機会を提供することで、地域への愛着心と環境への意識をもった次世代を育成し、誰もが真の豊かさを感じられる社会づくりに貢献します。

活動概要

◎資源の確保やモノの循環

リユースショップの全国展開と修理事業の促進によるMOTTAINAI(もったいない)精神を追求。同業者の株式会社友心との協働で、不用品回収や遺品および生前整理の現場で情報交換しながら、まだ使える家電や家具を協力して確保。特定非営利活動法人抱樞がサポートしている生活困窮者への住まい手配時に、きれいにメンテナンスした冷蔵庫や洗濯機など家電製品を格安で卸し、海外市場へも輸出します。また、障害のある方が働ける環境の提供も行っています。



輸出家具

◎次世代の育成

店舗で集めた寄付金は、児童施設への備品やおもちゃ、衛生用品のプレゼントに充て、また、協働団体JPSAの講演会で集めた寄付金は、児童施設の子もや職員を対象とした質の高い教育の提供や備品の提供に活用しています。講演会場では、募金だけでなく私たちの活動に共感してくださる団体からも協賛を募り、企業とのつながりを広げています。



児童施設訪問

成果と今後の展望

リユース事業では「循環する仕組み」が構築でき、年式の古い家具や家電もきれいに整備され、資源として活用されています。複数の取り組みの中で、参加企業の皆さまとSDGsにおける活動の意義について、改めて深く考え学ぶ機会にもなりました。

今年から実施した「リーダーキッズ」と呼ばれるプログラムでも、弊社だけでなく県内複数の企業からも賛同があり、多くの子どもを招いて開催。児童施設で暮らす子どもたちに、心の豊かさや自己実現について伝えることができました。セミナー1日目は机の下に隠れて出てこなかった男子児童も、2日目には心を開き「また受けてい」と言ってくれるまでに。職員の方々からも高評価をいただきました。子どもたちが学びを深め、地元への愛着や帰属意識を育むことで、将来、市内の企業で活躍できる次世代の育成が実現すると考えております。今後もSDGsの目標でもある、誰も取り残さない社会の実現を目指します。



リーダーキッズ

主な協働機関	地域、NPO、企業、教育機関、リサイクル業者
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●環境にも人にも優しい取り組みが、複数の事業や新しい分野でも実現しており素晴らしい。 ●リユース事業を通して地域との関わりを深め、SDGsの3側面から課題に取り組んでいる。 ●これまでの活動を踏まえて、新しい分野にも積極的に取り組んでいる。 ●多様な活動を展開しているので、関わった人の数などを見える化して、活動特性の分析をしてほしい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ●市内企業への就職促進・新たな働き手の確保 ●ごみの減量と廃棄物発電



受賞者の活動紹介

TOTO 株式会社

企業部門

活動名

小学校応援団の出前授業を通じた 節水意識の啓発



活動目的

弊社は創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、2030年に「持続可能な社会」と「きれいで快適・健康な暮らし」の実現を目指す、「新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030」を推進しています。「きれいと快適」「環境」「人とのつながり」を取り組むべき重要課題「マテリアリティ」として経営とCSRの一体化に取り組み、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献していきます。

今回の活動は「人とのつながり」を実践した取り組みとして、次世代を担う人材への環境教育を通じて、水資源の保全にはつくる人・つかう人の協業が必要なことの啓発を目的としています。

活動概要

北九州市には次世代を担う子どもたちの教育を地域全体で支えるために、地元企業が志を持って結束した「北九州の企業人による小学校応援団」があります。弊社も2011年の設立当初から参画し、自社のノウハウをいかした出前授業を複数テーマ実施しています。

「けんこうなくらしと水とのかかわり」の授業では、市内の小学生に対して、健康な暮らしに不可欠な水が貴重な資源であることを説明し、実験や映像を交えてメーカーが取り組む節水技術の進化を紹介しています。ものづくりを通じて環境問題に取り組んでいることを伝え、ユーザー側の節水意識の重要性を説明します。最後に児童による「節水宣言」も実施しています。

成果と今後の展望

「北九州の企業人による小学校応援団」の発足以降、延べ21校に「けんこうなくらしと水とのかかわり」をテーマにした出前授業を実施しました。授業を受けた児童から「水の大切さに気づき、日々の節水行動への意識が芽生えた」といったお礼の手紙が多数届いています。また、教職員からも「水を大切にしようという言葉かけや注意が、児童自身でできるようになってきた」といった声をいただいております。

また、コロナ禍を機にスタートしたオンライン授業も好評で、今後は授業の対象を市外や県外に拡大することも視野に入れています。選考委員からは中等教育への貢献も期待されています。

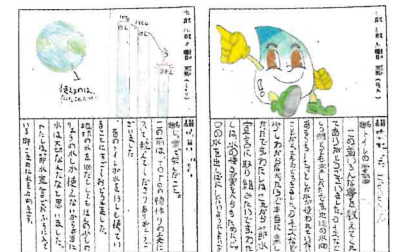
当活動を一つのモデルケースとして、弊社の次世代育成活動のさらなる発展につなげていきます。



実際の授業の様子(今町小学校)



当社の節水技術を、実験を交えながら紹介



児童からのお礼の手紙(西門司小学校)

主な協働機関

地域、企業、教育機関、教育委員会、北九州活性化協議会

選考委員からの評価

- 自社が実践するSDGs活動も交えながら、節水の大切さを次世代にわかりやすく伝える役割を果たしている。
- 専門分野を活かした経営とCSRが一本化された活動が展開されている。
- 出前授業に加え会社全体の幅広い取り組みで、工業の街北九州のシビックプライドの育成となる活動に期待したい。

SDGs未来都市計画との関連性

- ESD活動の推進



受賞者の活動紹介

株式会社 EVモーターズ・ジャパン

企業部門

活動名

日本のバッテリー安全技術で ゼロエミッション社会の実現を目指す



活動目的

エネルギーの脱炭素化に向け、商用EV(バス、トラック、3輪トライクなどの電気自動車)に特化した開発・製造・販売を手掛けています。独自の技術をもとに開発したモーター制御システムにより、世界最高レベルの低電力化とバッテリーの長寿命化を実現。さらに、大容量蓄電システムや廃棄されるEVのバッテリーを再利用したリユースバッテリー、太陽光発電を活用した再生可能エネルギー事業によるエネルギー・マネジメント事業を広く展開し、ゼロエミッション社会の実現に寄与します。

活動概要

商用EVの開発・販売を核に据えて、EMS事業を活用した再生可能エネルギーを組み合わせてソリューションを提供し、顧客の課題を解決しています。

◎商用EVの開発・販売・普及

大容量バッテリーシステムを搭載し、世界最高クラスの低消費電力システムにより長距離走行が可能なバスや物流車、幅広く活用できる3輪自動車など、市場のニーズと合致した電気自動車を開発。イベントや実証実験へEVバスをレンタルするなど、市民の皆さまがEVバスへ触れる機会を設けています。



小型コミュニティEVバス

◎充電インフラおよび燃料電池

日本で広く普及しているCHAdeMO規格に準じた急速充電器の製品化や、水素充填設備を必要としないLPG改質型燃料電池システムを開発しています。



急速充電器

◎エネルギー・マネジメント

リユースバッテリーを蓄電池として活用したり、超薄型・軽量・柔軟性を兼ね備えたCIGSソーラーパネルを開発し車両や建築物に設置することで、自家発電を行いゼロエネルギーシステムの提供を行っています。

成果と今後の展望

当初はバス事業者にEVバスを導入しているところはなく、EVバスがどのようなものかも知られていないという状況でした。さまざまな展示会や試乗会を企画し、EVバスをレンタル・乗車などしていただくことで、世界的に進んでいる脱炭素社会について、多くの方に興味を持っていただきました。なお、これまでのEVラインナップはバスと三輪トライクのみでしたが、トラックも現在開発中で、今後は、バス事業者と同様に物流業界へも働きかけていく予定です。



ゼロエミッション e-PARK
(完成イメージ図)

また2023年秋の稼働を目標に、商用EVの最終組立工場が建設されます。順次設備拡大で完成するのは、車両の生産、EV体験、工場や資料館見学など、体感型EV複合施設。風力やソーラーによる自立発電にて稼働予定です。脱炭素社会の実現、地場産業の活性化や雇用機会創出にも貢献して参ります。

主な協働機関	地域、自治体、商工会議所、 専門機関(CHAdEMO協議会、電動車活用社会推進協議会、九州自動車・二輪車産業振興会議)
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●本業そのものが自社の技術力を発揮した脱炭素化社会の実現に向けた事業で、経営とCSRが一体化されている。 ●事業の成果や波及効果が、地域にどう反映しているかの検討もしてもらいたい。 ●学校現場などで、地域におけるEV車両の正しい知識を普及する取り組みも期待したい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ●脱炭素化へ向けたイノベーションの推進 ●再エネ100%電力化の実現



受賞者の活動紹介

第一生命保険 株式会社 北九州総合支社

企業部門

活動名

チーム北九州 SDGsな未来へ
～北九州地域の「幸せの実現」をお手伝いし、
お客さまから選ばれ続ける保険会社を目指して～



活動目的

SDGs17の目標の多くは、生命保険事業そのものです。コロナ禍では特に生命保険の枠を越え、地域の皆さまに寄り添い、個々の幸せの実現をお手伝いする重要性を認識しました。人生百年時代を迎え、価値観が多様化する今、健康増進、高齢者支援、教育支援、女性活躍推進などさまざまな観点から、北九州のパートナーとして地域の成長を目指します。

活動概要

- 花農家や生花店との協働で、月に2回、花を購入し企業1,500事業所へ提供する「ふくおかの花応援活動」を実施
- 道路サポーターに登録し、月1回、「まち美化清掃活動」を実施(延べ132人が参加)
- ウーマンワークカフェを活用した女性活躍の推進と、「ゆめみらいワーク」に出展した小中高生に「夢授業」を実施
- ペーパーレス化推進で子ども食堂の支援・寄付
- がんセミナーの開催
- その他、高齢者見守り活動、大学生向け生命保険講座を半期で15回開催、小倉城竹あかりボランティア、リモート会議推進による温室効果ガス抑制、障害者就労支援、健康増進・地域活性化ウォーキングイベント開催など、活動は多岐に渡ります。



「ふくおかの花」応援活動



まち美化清掃活動



「ゆめみらいワーク」に出展

成果と今後の展望

ふくおかの花応援活動では、生花店や訪問企業ならびに地域の皆さまに感謝されることが励みとなり、より積極的な活動となっています。主旨に賛同する方々に別企業を紹介され花農家や生花店の収益に貢献、新規訪問企業とは花を届ける際に会話ができ親密化が図れています。

清掃活動では、挨拶や感謝の言葉をいただくことも多く、タバコのポイ捨てやゴミ削減を意識する方が増えたように思います。

ゆめみらいワークに出席した学生は、生命保険の理解や職業観を醸成する機会となり、他の学生への波及効果も期待できます。

SDGs未来債はグリーンプロジェクトおよびソーシャルプロジェクトに充当され、SDGsの実現に貢献しています。

今後も健康寿命の延伸に向けた教宣活動と、社会保障を補完する自助努力での生命保険販売を通じて、地域の皆さまに安心のその先にある幸せを提供し続けていきます。

主な協働機関	花農家・生花店、地域、企業、福岡県警、社会福祉協議会、教育機関、JP九州
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 自らの企業の専門分野を活かしたさまざまな活動で、多くの方々へSDGsの意識浸透を図っている。 ● 夢授業・生命保険講座をはじめ、各種イベント・支援先での参加者の感想があるとなお良い。 ● 北九州総合支社ならではの切り口、地域への関わりポイントをアピールしてほしい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● ウーマンワークカフェ北九州を活用した女性活躍の推進 ● 誰もが働きやすいまちづくり



受賞者の活動紹介

日鉄エンジニアリング 株式会社

企業部門

活動名

地域共生型ガーデン 「エンジ村」活動10周年



活動目的

八幡東区の社員寮に地域共生型ガーデン「エンジ村」がオープンしてから早10年。NPOや園芸家など地域の方と協働して、子ども達に農作物・花の栽培やものづくり体験の場を提供し、企業として持続可能なまちづくりに貢献しています。また、2019年度にSDGs賞を受賞した、高校生を対象にしたエンジニアリング体験プログラム「情熱・先端Mission-E」は、コロナ禍でも罹患防止を徹底し、オンラインも併用して実施するなど、ESDの活動も継続しています。

活動概要

- ◎『地球環境保全』八幡東田グリーングリッド計画に呼応し、都市の中に畑・池を作り、生き物の生息環境を確保する。
- ◎『次世代育成』地域の子どもたちに、作物の栽培・収穫、ビオトープの観察、生き物の飼育など体験の場を提供。自然との共生に対する意識を向上させる。
- ◎『コミュニティ発展』「エンジ村」を運営・活用することで、魅力的な街づくりに貢献する。



みんなで植えたサツマイモの収穫

これら3つの目的からスタートした「エンジ村」で行われる社会貢献活動は、NPO法人「里山を考える会」や花屋・園芸店ネーブルグリーンにガーデニング指導、運営、イベント企画を協力していただき、社員やその家族も参加して、年に数回行われています。地域の児童館・保育園に声をかけて実施されるサツマイモの苗植え・収穫では、ゴミ処理の副産物である溶融スラグ肥料を用いて再資源化を教育したり、農作物の育成を通じた食育を行ったりしています。また、「エンジ村」で成育した植物を利用した銅版画教室、クリスマスイベントなども社員とともに実施し、ご好評いただいています。



銅版画教室：エンジ村でのスケッチ風景

成果と今後の展望

児童館・保育園からは、子どもたちに自然への興味がわいた、土に触れることで情緒が安定したなどの報告を受けています。またNPO法人との協働により、社員が業務では得られない刺激を受け、視野を広げています。

10年の間には、社内に「エンジ村」同好会もでき、活動開始時には独身だった社員が子どもを連れて参加するようになっています。活動にご協力いただいているネーブルグリーンは、その後も城野地区のまちづくりに貢献しています。



クリスマスイベントでの鍋パーティー

今後は、企業がまちづくりに参画する一つのモデルとして発信することで、北九州市内の企業が類似の取り組みをしてくれることを期待します。

また、弊社が2019年度にSDGs賞を受賞し、継続して実施している「情熱・先端Mission-E」に参加した中高生からは「廃熱利用を学べた」「進路選択の参考になった」などの声をいただいています。

主な協働機関	NPO、花屋・園芸店
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちの憩いの場づくりからゴミの再資源化の教育が行われたり、社内にも同好会ができるなど、実践的・主体的な活動が行われている。 ●企業と社会の中間的な関わり方を示している。 ●生き生きとした活動の広がりは写真からも伝わり、持続可能なまちづくりが実現されることを期待したい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ●ESD活動の推進 ●子どもに関する社会的な課題への対応



その他今回応募いただいた皆様



市民部門

団体名 **ブライتكッズガーデン**

活動名 世界海洋の日をお祝いして、
海について学ぼう

団体名 **北九州市立市丸小学校**

活動名 伝えよう未来へ
守ろう市丸の宝

団体名 **北九州市立すがお小学校**

活動名 川と森を守り、
持続可能な社会に繋げる竹プロジェクト
～竹を地域の宝に～

団体名 **北九州市立八幡小学校**

活動名 自分達から始めようSDGs

団体名 **北九州市立枝光小学校**

活動名 「枝光防災レンジャー」～自分たちの住んでいる
まちを自然災害から守るために～

団体名 **北九州市立足立中学校**

活動名 SDGs「住み続けられるまちづくり」の
目標達成に向けた
「花いっぱい運動」プロジェクト+校歌の広報

団体名 **北九州市立則松中学校生徒会**

活動名 東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨・
令和2年7月豪雨災害復興支援活動
則松中学校生徒会「第4回きずなプロジェクト」

団体名 **北九州市立田原中学校
ボランティアクラブ**

活動名 登校時のあいさつ運動
季節の花壇

団体名 **北九州市立富野中学校**

活動名 SDGsの視点を生かした
協働的・主体的に取り組む態度の育成

団体名 **北九州市立緑丘中学校**

活動名 シビックプライドの醸成を目指したESD教育の推進
～北九州市の魅力伝えよう～

団体名 **北九州市立大学SDG5プロジェクト**

活動名 ジェンダー平等の輪を未来につなぐ
「ジェンダー平等の未来予想図」プロジェクト

団体名 **北九州市立西小倉市民センター**

活動名 児童対象
「まなべる塾」

団体名 **山寺川ほたるを育てる会
山寺川をきれいにする会**

活動名 ホタルが育つ川には、人も育つ!?
ホタルの保護活動を軸とした
「実践的!まちづくり」の事例!!

団体名 **日本野鳥の会 北九州支部**

活動名 支部は、会員が野鳥や自然を楽しみ、
その研究や保護に関する知識及び教育を向上させ、
さらに広く市民に対し自然保護思想の
啓発増進をはかる事を目的とした活動を行っている。



その他今回応募いただいた皆様



市民部門

団体名 九州造園・グリーンワーク共同事業体

活動名 北九州市ほたる館における
環境学習プログラムの実施等

団体名 グリーンパーク活性化共同事業

活動名 指定管理を通じたSDGsへの貢献

団体名 北九州市の文化財を守る会
(北九州市立田原中学校 末松 晋弥)

活動名 地元のグループと共同して地域の歴史を探り、
シビックプライドを高める取り組み

企業部門

団体名 株式会社メディクリーン

活動名 メディクリーンエコドライブ活動

団体名 株式会社ドーワテクノス

活動名 急速凍結機を利用したフードロス削減・
働き方改革の実現

団体名 九州旅客鉄道株式会社 社員研修センター

活動名 ZEB先進事例と地域共生
～社員研修センターの環境への取り組み～

団体名 株式会社サンエー

活動名 廃棄衛生陶器再生骨材エコセルベンの
製造販売活動による
持続可能な社会を構築する再資源化活動

団体名 株式会社コイシ

活動名 地方創成の未来土木 自然のしくみを学び研究し、
土中環境に乗った土木への取り組み



北九州市のSDGsの取り組み



北九州市では、SDGsの達成に向けて、以下のSDGs戦略(ビジョン)に基づき、さまざまな取り組みを進めています。

「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」

北九州市SDGs未来都市計画の策定

令和3年3月に、第二期となる「北九州市SDGs未来都市計画」を策定しました。SDGsを原動力に地方創生や地域活性化を図り、「市民生活の質(Quality of Life)の向上」「都市ブランド力の向上」につなげ、「日本一住みよいまち」の実現を目指していきたくと考えています。

●第二期北九州市SDGs未来都市計画について

URL: <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/02000156.html>



北九州ESD協議会

団体紹介

北九州ESD協議会は国内RCE(国連大学認定ESD推進拠点)として、持続可能な社会の実現を目指して、ESDを推進しています。

魚町商店街にある「まなびとESDステーション」を拠点に、地域(商店街・市民センター等)、市民団体・NPO、教育機関(大学や市内小中学校等)、企業、行政等のさまざまなステークホルダーとともに活動を行っています。

主な活動

- ESDを広めるための広報紙等の作成
- 国内外のRCEとの交流
- 講演会の実施
- 市民センターの活動を紹介し、参加者同士のオンライン交流会の実施
- ユースによる出前講座の実施
- イベント企画を通して、ESDを市民に向けて周知

会員

93団体(市民団体48、学校・教育関係17、企業13、行政15)、個人会員57名(令和5年1月末現在)

実績

平成18年度 国連大学からRCEに認定(国内4番目/現在8地域)
 平成29年度 「地方自治体施行70周年記念総務大臣表彰」受賞
 平成29年度～ 令和元年度(3年連続)
 「ユネスコ日本ESD賞」(ユネスコ主催)国内候補として推薦

所在地

北九州市小倉北区魚町3丁目3-20中屋ビル地下1階(まなびとESDステーション内)



イベントプロジェクト

北九州SDGsクラブ

団体紹介

さまざまな課題解決を目指してSDGsを達成するには、産・官・学・民が連携し、市民一丸となって取り組む必要があります。北九州SDGsクラブは、さまざまなステークホルダーが自由に参加できる場を提供し、会員の交流や情報交換を通じて、それぞれの活動が活性化することを目指しています。



●ホームページはこちらから

URL: <https://www.kitaq-sdgs.com/>

活動内容

●交流会

会員の活動発表やワークショップ、情報交換会などを定期的に行います。



●プロジェクトチーム

複数の会員が連携してSDGsの達成に向けて主体的に取り組み、地域課題の解決を目指す。



プロジェクトチーム活動の様子

●セミナー

SDGsへの理解を深め、市民や企業などへのSDGsの浸透を図る。



令和元年度に発足したプロジェクトチーム

北九州市の地域防災力向上のためのアクションプラン

提案者: 明治学園高等学校

企業・事業所対抗「ウォーキング大会」

提案者: 日本生命保険相互会社

教育コンテンツ Rethink YAWATA

提案者: 株式会社JTB

学びのスクランブル交差点

提案者: 永末 康介
(北九州市立大学 基盤教育センター)

令和2年度に発足したプロジェクトチーム

北九州のまちを美しく！プロジェクト

提案者: 日本たばこ産業株式会社

紙の循環から始める地域共創プロジェクト

提案者: 紙の循環から始める地域共創プロジェクト推進フォーラム

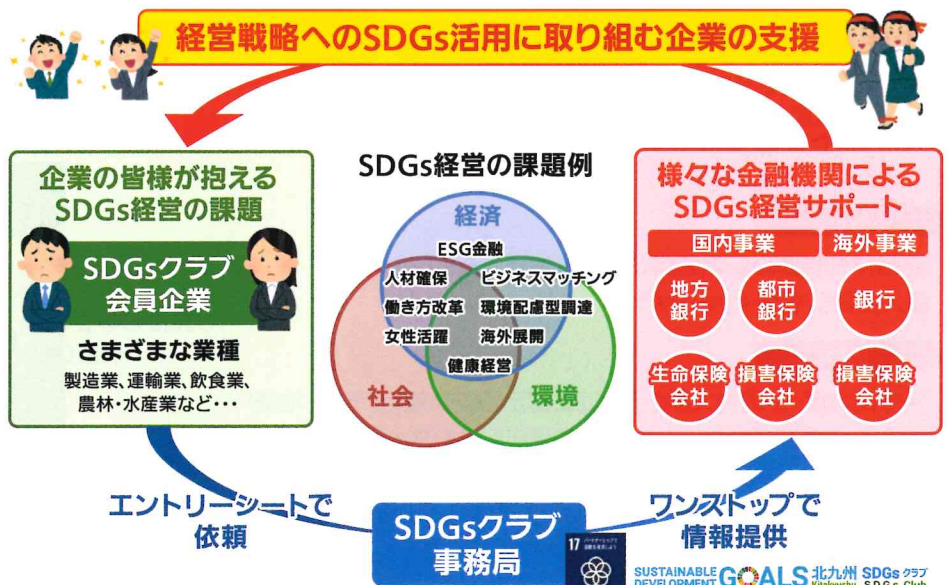
令和3年度に発足したプロジェクトチーム

北九州みらいキッズプロジェクト「出張子ども大工」

提案者: 大英産業株式会社
株式会社大英工務店
桑の美工房

●SDGs経営サポート

地域の企業が事業活動を行う上で「SDGs」の視点を取り込んだ、いわゆる「SDGs経営」を推進できるように、SDGsクラブ会員の金融機関が必要な支援を行う。



会員 2,047 (企業1024、団体263、学校247、市民513) (令和5年1月末現在)

事務局 北九州市、北九州商工会議所

北九州SDGs登録制度

昨今のESG投資や脱炭素の潮流を踏まえ、SDGsの視点を企業経営に取り入れた市内事業者の取り組みを「見える化」することで、企業の競争力を高め、地域経済の活性化を図ります。

ESG投資・脱炭素の要請が急速に高まる中で、地元企業へSDGs経営を普及

地元企業の競争力UPによる「自律的好循環」の創出

取組みの見える化 + 関連づけ

経済 調達・雇用
社会 労働環境
環境 再エネ、3R

SDGs未来都市計画
17ゴールと
169ターゲット

登録!

市に申請

要件 1 「経済・社会・環境」を網羅した12項目の取り組み
要件 2 重点的な取り組みに、数値目標を設定
要件 3 地域貢献の取り組み
(子ども食堂、公園・道路維持等)

選ばれる企業に!

- サプライチェーンから
- 銀行・投資家から
- 就職先として
- 消費者から

●ホームページはこちらから

URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00016.html



未来人材の育成



高校生SDGs選手権大会



SDGs Quest みらい甲子園

地域課題等に関心を持ち、解決策を考える探究学習での成果を発表するコンテスト大会「高校生SDGs選手権大会」を実施してきました。令和4年度は、全国規模の民間主催の大会「SDGs Quest みらい甲子園」に参加しています。

●動画の視聴はこちらから

URL: https://www.youtube.com/channel/UCFU_r4YFKwGRKh5v_ROajMA



SDGs未来モデル発信事業



SDGsに積極的に取り組む市内企業(20社)を、市内の学生(大学・高等専門学校)及びライターが取材し、動画を作成しました。

動画を広く発信することで、市内企業におけるSDGs経営の普及・促進を図ります。

●動画の視聴はこちらから

URL: <https://action-kitaq-sdgs.com/>



北九州SDGsマーク

多様な主体(SDGsクラブ会員、SDGs登録事業者など)が、北九州市と連携してSDGsに取り組んでいることをPRできるツールとして、独自の「北九州SDGsマーク」を制作しました。



コンセプト

多様な主体の連携によってイノベーションを生み出し、社会課題の解決に向かうのがSDGs



- SDGsのゴールアイコンと同じ17色を使用
- 様々な形が重なり、交わり合う様子を、「地球」というシンボルで表現

●マークの詳細はこちらから

URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00027.html



SDGsに対応し、環境に配慮した報告書として作成しました



◎管理された森林の木材を使用しています

認証された森林の木材や再生資源からできた製品であることを認証するマークで、用紙調達から全ての製造工程において、特別な管理体制を実施することで、森林認証紙を確実に製品化した証のマークです。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

◎リサイクル適性マーク

紙、板紙へのリサイクルが可能な印刷製品に表示するマークです。印刷用の紙へリサイクル可能なリサイクル適性(A)マークと板紙へリサイクル可能なリサイクル適性(B)マークがあります。



◎グリーンプリンティング(GP)認定マーク

印刷関連事業所全体及び製造工程の環境配慮基準を達成し認定されたグリーンプリンティング(GP)認定工場が製造し、紙、インキ等印刷資材がグリーン基準に適合した印刷製品に表示できるマークです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

